

実践記録 シリーズ 135



コミュニティFM との協働による新たな可能性の模索

新潟市新津地区公民館 主査 関口 亨

1. はじめに

わが新津地区公民館が入居している新津地域学園は、JRが以前研修所として使用していた建物を旧新津市が買い取り、生涯学習活動の拠点として整備してきた施設で、新潟市の鉄道資料館なども同じ敷地内にあります。

そしてこの新津地域学園には、新潟県内で初めて開業したコミュニティFM放送局である「エフエム新津」が入っています。

「せっかく同じ所にいるのだから一緒に何かやりたいね」という話を以前からしていたのですが、今回、「講座の開催」という形でコラボレーションが実現しました。

2. 「ここでラジオをやっています！」

～おしゃべりの仕事を体験しよう～

開催日	テーマ
1 2/18 (水)	おしゃべりのイ・ロ・ハ おしゃべりの仕事の基本、「あいうえお」の練習や滑舌訓練。みんなで大きな口を開け大きな声を出して、ストレスも解消？
2 2/25 (水)	五・七・五・七・六・一 エフエムにいつ「チャットンロール金曜日」の名物コーナー。短歌でも川柳でもない新しい詩の世界をとおして言葉のキャッチボール。
3 3/4 (水)	自分ニュース いつ、どこで、だれが、どうして、どうなったか。5W1Hを使い、自分の身に起きたことをニュースにまとめて発表してみましょう。
4 3/11 (水)	スタジオ体験 ラジオチャットで実際に使用している放送機器に触れ、マイクをとおしておしゃべりしてみましょう。気分はアナウンサー？

話し方の基本である呼吸法や発声の仕方を学ぶことはもちろんですが、それだけでなく、番組の人気コーナーを使った言葉遊びなどをとおして、文章の構成力やコミュニケーション力を高めるところまで意識したプログラムとなっており、参加者の方からは大いに頭と体を使っていただきました（しっかり話すためには意外にも体力が必要なのです！）。

そしてなんととっても好評だったのは、最終回に行ったスタジオ体験です。実際に放送に使用しているスタジオを使って参加者の声を収録したのですが、マイクを前



に緊張しながらも、講座で学んだ成果を発揮し、生き生きとナレーションに挑戦する参加者の姿が印象的でした。

3. 協働で事業を行うことの意味

今回の講座で目指したものは、たんに公民館が主催する講座でラジオのアナウンサーが講師を務めるということではなく、両者が互いに自分の得意分野を活かし一緒に企画を作り上げていくという、いわゆる「協働」でした。ですから、どんなプログラムをどんな人たちをターゲットに展開するのか、ネーミングは、開催時期は、PR方法は…様々な点についてディスカッションを重ねながら進めていきました。

協働で事業を行うのですから、そこに携わる双方にとって意義、そしてメリットがあるものでなければならぬことは言うまでもありません。今回のケースで考えられたのは次のようなことでした。

- 【公民館】①放送局の持つリソースを活用することで、既存のものとは違ったユニークな企画を実施することができる。
- ②放送を使おうとすれば、当然かかる費用を負担することなく情報を電波に乗せることができる。
- 【FM局】①会場費等の費用を負担することなく企画を実現できる。
- ②講座そのものや公民館サイドの情報網をとおして、企画や局のPRを図ることができる。

4. 評価と今後の展開

今回の講座を実施したことは、お互いが既存の枠を超えてその存在をPRする絶好の機会となりました。また、参加者の方々からも「よい経験ができて楽しかった」「面白かったのでまたやりたい」といったありがたいお声をたくさんいただきました。

この経験を活かし、さらに相手の良いところを引き出し合えるパートナーシップを築くことで、よりみなさんに楽しんでいただける企画を生み出せるよう努力していきたいと思っています。

※「ここでラジオをやっています！」は、さらに内容をグレードアップし「おしゃべり道場」として、新津地区公民館で実施している秋葉区市民大学のレギュラー講座として新たなスタートを切りました。みなさんに愛される名物講座として育ってくればいいなあ、と願っている担当者です。